

授業科目 生理学実習Ⅰ

【担当教員名】 宮岡 洋三、蘆田 一郎	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語
	開講時期	後期	必修・選択	必修・必修・必修
	単位数	1	時間数	30・30・30

【概要】
 本科目では、人体の機能について実験的に学ぶ。自分自身あるいは同級生を対象にして、感覚系や運動系あるいは循環や呼吸などの機能に関する基礎を習得する。講義では、主に「頭」を使って知識を獲得するのに対して、この実習では、「手」をはじめ「身体」全体で学習する。
 本科目への参加は、インターネット経由による実習資料の入手に始まる。次いで、「発表」に向けたデータ収集と解析の方針を立て、実験に取りかかる。さらに、「レポート」提出のために文章作成・表計算ソフトの使用に習熟する必要があり、かつ「発表」へ向けたスライド作成ソフトの使用およびプレゼンテーション技術の習得も併せて必要となる。

- 【学習目標】
1. 「生理学実習」用のウェブサイトアクセスして、実習資料を入手する。
 2. 入手した実習資料を基に、実習遂行に必要な知識を整理する。必要ならば、図書館などで参考図書に当たり、資料を適宜加工する。
 3. 各実習の冒頭にある「小試験」によって、整理した知識の完成度を知る。
 4. 実習に参加して（【履修上の留意点】を参照）、「身体」を通しその内容を把握する。
 5. 実習内容をレポートとして簡潔にまとめ、「小試験」と「実験」から得た知識を体系化する。
 6. 発表スライドの作成を通して、プレゼンテーション技能を身に付ける。
 7. 実習内容の発表をおこない、討論を通じて、自分たちの知識の不備や問題点を知る。
 8. 必要に応じて、発表会での指摘などを踏まえて再度レポートを作成し、「講義」と「実習」で学習した内容を体系づけて把握する。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	実習ガイダンスー 実習の流れ（予習・小試験・実施・レポート・発表会）の説明		実 習（宮岡、蘆田）
2	体性感覚ー1 皮膚感覚点の検索		実 習（宮岡、蘆田）
2	深部感覚ー1 位置感覚		実 習（宮岡、蘆田）
3	体性感覚ー2 二点弁別閾値の測定		実 習（宮岡、蘆田）
3	深部感覚ー2 重量弁別、Weberの法則 発表ー1		実 習（宮岡、蘆田）
4	循環機能ー1 血圧の測定		実 習（宮岡、蘆田）
4	循環機能ー2 心電図(ECG)の記録・解析 発表ー2		実 習（宮岡、蘆田）
5	呼吸機能 肺活量・1秒率の測定		実 習（宮岡、蘆田）
5	運動機能 表面筋電図(EMG)の記録		実 習（宮岡、蘆田）
5	高次脳機能 反応時間の測定 発表ー3		実 習（宮岡、蘆田）

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書	担当教員による「生理学サイト（URLは開講時に通知）」があるので、実習内容の予習・復習などに活用する。			
参考書	本学図書館には、生理学に関する各種書籍・ビデオが用意されているので、自主的に参考にして欲しい。			
その他の資料				

<p>【評価方法】 実習科目であるため「出席（参加）」を重視し、評価全体の50%を「出席（参加）」に当てる。残る50%の評価は、「小試験（毎回実施）、20%」と「レポート+発表会、30%」からなる。</p>	<p>【履修上の留意点】 実習室ならびに実習用具の制約から、上記の「授業計画」にある項目順序が変更になる場合もあるので、予め承知しておいて欲しい。また、「生理学実習」ウェブサイトには、先輩が作成・提出したレポートに対する大量のコメント集があるので、「共有財産」として末永く、積極的に参照して欲しい。 なお、客観性と公平性の確保が困難な「実習態度」は評価の対象としないが、明らかに他人の迷惑となっている場合には、退室を求めることがある。</p>
--	---

作業療法学科
専門